

西海ブロック水産業情報

NO. 96(平成29年1月～3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○筑前海 ・フトモズク養殖:3月現在、育成中。生育は順調で4月より収穫開始予定。</p> <p>○有明海 ・ノリ養殖:一汐遅らせて1月6日から冷凍網を出庫し、1月17日から摘採開始。珪藻プランクトンの増殖により1月末から色落ちが発生したものの、河川流量が多く、平年よりも被害の拡大が遅かったため、3月までほぼ全漁場で生産が続けられた。三期作は3月下旬から網が張り込まれ、4月上旬までに1回摘採し、4月12日に終漁した。今漁期の生産枚数は13.4億枚(過去5年比104%)、生産金額184.4億円(過去5年比134%)、平均単価13.81円/枚(過去5年比+3.01円/枚)となり、平均単価の上昇により15年ぶりに180億円を超えた。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・成長、生残とも順調。11月中旬より順次収穫開始、3月で概ね終了。生産は平年を上回る見込み。 ・来期用の種苗は確保。種苗の質については、宮城産が一部薄めのため、広島産を調達した漁業者もいる。 【ノリ養殖】 ・10月20日採苗。秋芽は芽流れにより生産不能。冷凍網も摘採1回で芽流れし、1月下旬に新たな冷凍網を展開。今期は昨期に続き不調。 【栽培関連】 ・「かくや装置」によるアサリ稚貝生産、砂利袋による干潟での放流試験を実施中。</p>	<p>○有明海 ・マガキ養殖 28年度は、19経営体が25基の筏を用いて生産を行った。小中サイズが多かったものの、身入りが良く、昨年度(約93トン)を上回る約97トンが収穫された。 ・ノリ養殖 28年度の冷凍網期は、海域の栄養塩濃度が著しく低かったことから、網の出庫が、当初予定されていた12月23日から1月6日へと変更された。出庫後も、河口域を除くほぼ全域で1月末までには色落ちが発生する等、冷凍網期全体を通して、プランクトン細胞数は比較的少なかったものの、栄養塩が著しく少なかったことが大きな特徴であった。なお、収量は平年より少なく、品質感によって取引単価は高かった。最終的に28年度漁期は、生産枚数17.3億枚、生産金額249.4億円となり、15年度以降14年連続で生産枚数・金額ともに日本一となった。</p> <p>○玄海 ・アカウニ:9月26日から種苗生産開始。2月上旬から45.9万個(10mmサイズ)および11.6万個(15mmサイズ)を配布中(10mmサイズは約21万個、15mmサイズは全て配布済)。3月末時点で殻長10mmサイズを約15万個飼育中。 ・カサゴ:1月31日から種苗生産開始。 3月末時点で全長11～24mm約47万尾飼育中。 ・クロアワビ:平成27年度産:12月中旬から3万個(30mmサイズ)を配布中(約2.6万個配布済)。 3月末時点で殻長20～30mmサイズを約3万個飼育中。 平成28年度産:10月25日から種苗生産開始。 3月末時点で殻長10.0～12.5mm約10万個飼育中。 ・ナマコ:3月13日からアオナマコの種苗生産開始。3月下旬に採苗。波板飼育中。</p>		<p>・最近の数年間連続して発生していた、養殖魚の低水温による生理障害は確認されなかった。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・ブリ人工種苗生産実証試験 12千尾生産(10.6mm) ・イワガキ養殖用種苗 27千個出荷(30mm) ・1月上旬に八代海でMesodinium rubrum。1月下旬～2月上旬に鹿児島湾奥部でMesodinium rubrum。3月中旬～下旬に鹿児島湾奥部でHeterosigma akashiwoによる赤潮が発生したが、漁業被害はなかった。</p>	<p>藻類(ワカメ)養殖試験 沿岸漁業の創業としての起業の際の課題解決を目的に、市場からの要望の強いワカメを対象として、平成28年12月から県北の北浦町直海地区と県南の南郷町目井津地区で試験養殖を行った。過去の食害の知見から、底質が砂地である場所や漁港内の奥側に設置場所を選定し、種糸(他県産)を展開した。3月終了時に直海地区では平均藻体長89cm、目井津地区では78cmとなった。直海地区の試験中水温は14.3～20℃で平均水温16.8℃、目井津地区は15.4～20.2℃で平均17.6℃であり、特に前半は直海地区の方が低めに推移した。収穫量や収穫した藻体の状況は、目井津地区より直海地区の方がよく、水温帯がワカメの成長に適していると考えられた。</p>		